千葉日報　平成24年1月27日（金）

千　葉　日　報　（日刊）　2012年（平成24年）1月27日（金曜日）

ちばビューロー

5国際会議を誘致

経済効果9億円　県の新補助制度が武器に

県内への国際会議などの誘致活動に取り組むちば国際コンベンションビューロー（千葉市美浜区）は、昨年7月に県が設けた国際会議開催補助金制度を初めて活用し、国際会議5件の誘致に成功したと発表した。県が試算する経済波及効果は総額9億8千万円で、補助総額は最大で3300万円に上る見込み。新制度は全国自治体で最大級の補助額を誇り、「誘致の大きな武器になる」（同ビューロー）と期待が高まる。

誘致した会議のうち最大規模は「日本毒性学会学術年会」（2013年6月開催、幕張メッセ）。医薬品、食品衛生、環境などの毒性学に関する学術会議で、参加者1400人、2億7千万円の波及効果を見込む。

物理学に関する学術会議の「アジア太平洋物理会議」（同年7月開催、幕張メッセ）、世界のダンス・民族舞踊の研究成果を議論する「CID−UNESCOワールドダンス・コングレス」（14年10月開催、浦安市）はともに日本初開催。このほか、「国際パズル会議」（13年8月開催、成田市）、「国際鍛造会議」（14年9月開催、幕張メッセ）が県内開催を決めた。

新たな補助金制度では、参加者100人以上、会期3日以上、参加国5カ国以上−などの各基準を満たすと、会場借り上げや会場設営・撤去などの費用を県が2分の1以内、最大1千万円まで補助する。協調補助制度を設ける市町村で開催された場合には、県・市町村の補助総額は最大2千万円まで増える。

現行で協調補助制度を実施しているのは成田市のみで、千葉市が新年度から実施を検討している。県は国際会議の会場として使われやすい浦安市や木更津市にも制度の採用を呼び掛けている。

新制度の整備以前は、誘致で競合する東京都や横浜市に比べて支援策が見劣りし、誘致競争で敗北するケースも少なくなかった。同ビューローは「同じ時期に5件一気に決まることは珍しい。新制度が魅力と言う主催者は多く、今後の誘致でも大きな武器になる」と手応えを話している。

スリランカダンスを披露するユネスコ国際ダンスカウンシル東京のメンバー＝26日、千葉市中央区

躍動的なダンスで魅了

国際会議の主催者披露　ビューローが交流会

ちば国際コンベンションビューローの会員が交流を深め、新ビジネス創出を図る新春会員交流会が26日、千葉市中央区で開かれた。同ビューローの誘致で開催を決めたダンスの国際会議「CID−UNESCOワールドダンス・コングレス」の主催者が「スリランカダンス」を披露。華やかな民族衣装をまとった踊り手が躍動感あふれる演技で観衆を魅了した。

会場には会員企業のブースや商談席を設置し、約150人の参加者が交流を深めた。

あいさつに立った同ビューローの石井清昭専務理事は「東日本大震災後に県内で予定されていた国際会議・催事の延期・中止が14件あったが、その後、海外プロモーションなどの誘致活動を強化し、千葉への興味が戻り始めている」と指摘。「今後もMICE（国際会議や研修旅行など）誘致に強力に取り組んでいく」と決意を述べた。